

プレ・インターンシップ体験報告

所属：人間社会学部人間形成学科

業種：保育園

期間：25年2月25日（月）～25年3月1日（金）

今回プレ・インターンシップの活動で一週間、保育士の職業を勉強しました。活動をやってみようと思ったきっかけは、今の自分は保育士という職業をどれくらい知っているのか。また今まで園児と長い時間、一緒に過ごし、接する機会がなかったため、実際に自分はどれくらいのことのできるのかを試してみたかったからです。そして保育士になるにあたって、自分に足りない学ぶべきところを少しでも気づく機会になるといいなと思い行いました。

実際に体験してたくさんのことを学びました。その中で最も勉強になった出来事はけんかなどの子ども同士のトラブルの解決についてです。私は、大学で子ども同士のものの取り扱いなどが始まったとき、取られた方の意見を聞くだけでなく、取った方の意見も聞くなど両者の意見を聞くことが大切だということを学びました。しかし、実際に保育現場では一人の子どもだけでなく、たくさんの子どもの一度に見ていなくてはいけないため、そのように両者の意見を聞く時間はあるのだろうか疑問に思っていました。インターンシップの初日、遊びの時間で園児と遊んでいると男の子の大きな泣き声が聞こえてきました。「どうしたの？」と聞くと、泣き声はさらに大きくなり、泣き止んでくれません。周りの園児が事情を説明してくれるのですが、私は焦ってどうしたらいいのかわからなくなってしまいました。そんなところを見て、先生がすぐに来てくださいました。「どうしたの？」と先生は私と同じように聞きました。その子の泣き声は大きくなります。すると先ほどと同じように周りの子が「〇〇がブロックを投げたんだよ」と泣いている子の名前をいながら説明しました。すると先生は「どうしてブロックを投げたの？」と泣いている子に尋ねました。するとその子はちゃんと自分がどうしてブロックを投げたのか。そしてなぜこのようになったのかを話し始めました。それを聞き終えて先生は、このことについてみんなはどう思うかを近くで見ていた子に問い、意見を聞いて、ちょっとした話し合いが始まりました。その間先生は、ブロックを投げたことを責めるのではなく、共感しつつ、でもブロックを投げることはいけないことだということを伝えていました。それが終わるとまたみんなで楽しそうに遊び始めました。このような解決の場面を見たのは初めてで、私も真似をしてみようと残りの日を少しでも両者の意見を聞くようにしてみました。そしてインターンシップが始まる前に主任の先生から、共感することが大切というアドバイスを教えていただき、子どもの痛みや悲しみの共感を子どもに伝えてみました。このようなけんかの場面以外でも、共感することで怒っていたり、泣いていた子もそのような感情がなくなることが多々あり、共感することの大切さを体験することができました。

その他にも食事に対する意欲の考え方、子どもひとりひとりの生活リズムや家庭環境などを把握する意味など本当にたくさんことを学びました。今後実習で今回学んだことを実践し、将来に向けてさらに自分に足りないところをたくさん知り、いろんな先生の考え方を聞いて、それを自分なりに自分のものにしていきたいと思いました。（人間社会学部 人間形成学科 2年生 新田亜璃沙）

